いのちと地域を守る　毎月11日掲載

防災・減災のページ

■外出先での被災 どう対応

「0次の備え」意識して

考える

呼び笛やライト 常に携帯

東日本大震災は平日の日中に発生した。このため、職場、学校など家以外の場所で被災した人は多い。外出先での被災に備えようと、「人と防災未来センター」（神戸市）は、持ち運べる防災グッズを普段から携帯する「0次の備え」の普及啓発に取り組んでいる。

震災発生後の1次の備えとしてまず思い浮かぶのは、家具の転倒防止や非常持ち出し袋など。次の段階では、数日間を過ごす食料、水、生活用品が必要になる。これらの前段階として、常に防災グッズと意識を身につける「0次の備え」という発想が生まれた。

センターの森口和音子さんは「人はいつどこで被災するか分からないので、家や職場の備えだけでは十分とはいえない。携帯できる物を持ち歩き、いざという時に役立てようと提案している」と説明する。

センターは震災後、防災グッズのチェックリストの見直しを

人と防災未来センター「減災グッズを備えよう―チェックリスト」より抜粋

した。非常持ち出し品の中で持ち運べる物のほか、ホイッスルや薬など、日頃から携帯することで役立つ物を「0次の備え」として整理し、新たなリストを作った。

森口さんは「被災時をイメージして、持っていれば役立ちそうだとか、便利そうだと考えることが『0次の備え』の出発点になる」と話す。

新しいチェックリストは、人と防災未来センターのホームページからダウンロードできる。

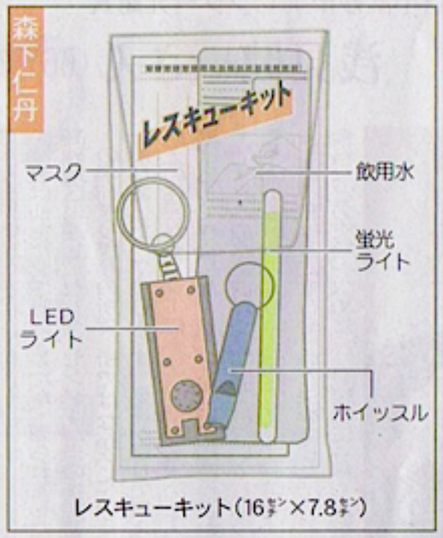
チェックしてみよう／0次の備えグッズ

- □飲料水
- □ホイッスル
- □携帯ラジオ
- □連絡メモ
- □筆記用具
- □救急用品セット
- □持病薬・常備薬
- □簡易トイレ
- □使い捨てカイロ
- □安全ピン
- □携帯食
- □懐中電灯
- □携帯電話
- □身分証明書
- □現金（10円硬貨を含む）
- □マスク
- □ティッシュペーパー
- □ハンカチ
- □ポリ袋

防災グッズ ア・ラ・カ・ル・ト

レスキューキット

森下仁丹



レスキューキット（16㌢×7.8㌢）

森下仁丹の「レスキューキット」（1050円）は、服のポケットに収まるサイズを前提に商品化された。厚さ2㌢の透明なパッケージには、口や鼻からホコリなどの侵入を防ぐマスク、発光ダイオード（LED）ライト、ホイッスル、蛍光ライト、20㍉リットルの飲料水の5点が入っている。

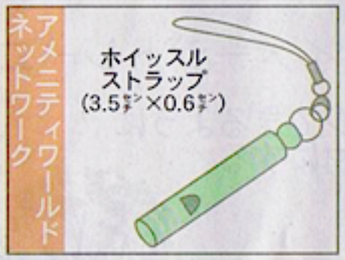
持ち運びやすさを重視し、被災時に救出までの時間を生き抜くアイテムを必要最小限に絞り込んだ。

ヘルスケア事業本部は「外出時を含めて常に備える意識と対策の必要性を伝えながらPRしていて、小中学校からも問い合わせがある。女性用など対象者に合わせた商品の開発を進めている」と言う。

「0次の備え」と同じような発想で、さまざまな防災グッズが企業やNPO法人から開発・販売され、持ち歩く備えの普及を後押ししている。グッズの一部を紹介する。価格はいずれも、税込みの希望小売価格。

ホイッスルストラップ

アメニティワールドネットワーク

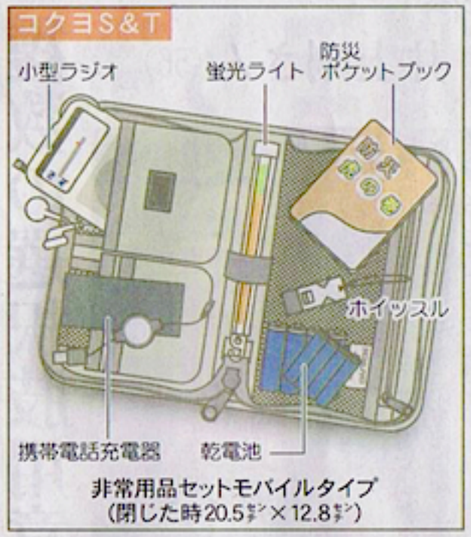


アメニティワールドネットワークの「ホイッスルストラップ」（420円）は、多くの人が常に持ち運べるように、携帯電話のストラップとして作られた。平らな形状やアクセサリータイプもある。

同社は「被災時に自分の居場所を知らせるだけでなく、普段から持ち歩き、防犯の道具としても活用してほしい」と話している。

非常用品セット・モバイルタイプ

コクヨS&T



非常用品セットモバイルタイプ（閉じた時20.5㌢×12.8㌢）

コクヨS&Tの「非常用品セット・モバイルタイプ」（5250円）は、営業社員が持ち歩くコンセプトで開発された。

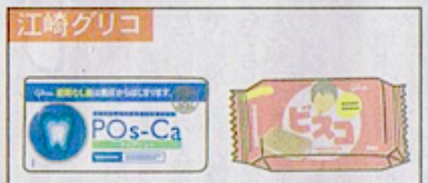
システム手帳ほどの大きさのポーチを開くと、小型ラジオ、携帯電話用充電器、単3と単4の乾電池、蛍光ライト、ホイッスル、小冊子「防災虎の巻」が入っている。

ホイッスルは多くの人の耳に届くように二つの周波数帯の音域が出せる。小冊子には安全確保をはじめ、被災直後に取るべき基本的な行動がまとめてある。

事業戦略部は「帰宅支援の靴ずれ防止パットや、帰宅困難者を想定した簡仕切り、床マットなども商品化している。防災に関する企業のニーズに応えたい」と話す。

ポスカ／ビスコミニパック

江崎グリコ



ポスカ（6.2㌢×12.6㌢）　ビスコミニパック（4㌢×6㌢）

江崎グリコのガム「ポスカ」（120円）は、水道が止まり、歯磨きができない状況でも虫歯を予防できる。「ビスコミニパック」（42円）は、小さな包装にビスケットが5枚入っている。

いずれも防災を想定して作られた商品ではないが、バッグに入れておけば、非常時の歯のケアや携帯食として使える。事業開発部は「崩れやすいビスコをケースに入れたり、賞味期限のプリントがこすれて消えないようにセロハンテープで覆ったりするのが長持ちのコツ」とアドバイスする。

探る

東北大助教

池田 菜穂さん

■インドの豪雨災害の構図

2010年8月上旬、インド北西部のラダーク地方で集中豪雨による水害が発生し、現地社会に甚大な被害を与えた。

同地方はヒマラヤ山脈の主脈より北側に位置する。南西のインド洋から吹くモンスーン（季節風）を山脈が遮るため、雨が降りにくい。1年の降水量が100㍉ほどの乾燥地である。

害ば　残見都親　斎族度3